## 97　誌上発表　宋代の漢籍に見える『内経』経文

橋本　典子
日本鍼灸研究会

前回，演者は「北宋以前の漢籍に見える『内経』経文」と題して，北宋以前の医書以外の諸書に散見している『内経』(『素問』『霊枢』）経文のうち，引用書名が明示されている引用のみを対象に調査報告を行った．その結果，対象とした11書から『素問』『霊枢』の引用65条を見いだしたが，そのうち「素問」あるいは「黄帝素問」を引くものは62条で，「鍼経」「霊枢」の引用は極めて少なく，また引用される部分も陰陽応象大論篇第五，特にその経文の一部「積陽為天．積陰為地」「故清陽為天．濁陰為地．地気上為雲．天気下為雨．雨出地気．雲出天気」などに偏る傾向のあることが判明した．今回は同様の方法により，前回は調査できなかった宋代の諸書についても調査を行った．ただし，宋代に『内経』を引用する書は，唐代までのそれと比べて格段に多いので，書目を限定し，その概要を報告するにとどめる．

宋代に著された書のうち，最も数多く『内経』の引用の見えるものは，『類説』（曾造撰）巻37で，「内経」と題された章で，引用書名無しに『素問』の宋臣序と王冰序から各1条と全28篇（1，4，5，7，8，9，10，11，17，18，19，20，21，23，28，29，33，39，40，45，46，47，53，54，56，58，62，74）から67条が引かれている．条文は偏り無く全書から概ね所出順に引かれており，その大半は現行『素問』にも見えるものである．ただし『霊枢』あるいは『鍼経』からの引用は見られない．これに次いで『内経』を引用するのは，『経外雑抄』（魏了翁撰）巻2で，宋臣序，王冰序各1条のほか，『素問』の8篇（1，2，3，4，5，7，9，10）から22条が引かれている．特に生気通天論篇第三を4条，陰陽応象大論にいたっては10条を引用しており，引用の傾向が唐以前のそれに類似する．『霊枢』も割注に1条が見える．『雲笈七籤』（張君房撰）にも，『素問』の6篇（1，3，5，26，37，62）から12条，『霊枢』の2篇（56，77）から2条（『霊枢』の引用を『素問』とする1条を含む）が見える．

『内経』の経文を1条のみ引用する例は枚挙に暇がないので，その一端に触れるにとどめる．たとえば『六書故』（戴侗撰）には巻12に「霊枢経曰」として骨度第十四がある．また同書巻25には「鍼経言」とする引用も見えるが，こちらは現行の『霊枢』には未見である．『斉東野語』（周密撰）巻16に「黄帝鍼経曰」として『霊枢』五音五味第六十五の引用が見られる．『路史』（羅泌撰）の巻6に『霊枢』陰陽二十五人第六十四，巻12に病伝第四十二や『素問』六節蔵象論篇第九の一部が見え，巻32，及び巻10や巻14の割注には『霊枢』への言及が見られる．相書『月波洞中記』（著者未詳）巻上に「針経云」，『蠡海集』（王逵撰）に「鍼経曰」の各引用が見えるが，これらはいずれも現行『霊枢』には見えない．

宋代の医書以外の諸書に散見する『内経』の引用の特徴は，当然にも宋改後のテキストが引かれていることにある．宋臣序と王冰序はしばしは引用の対象となっている．また引用される篇が，北宋初期までのように思想的な部分に偏ることなく，臨床的な内容を含む全書に拡大している傾向がみられる．『素問』の引用が『鍼経』あるいは『霊枢』の引用を大きく上回っている事に変わりは無いが，にもかかわらず，『素問』の運気七篇の引用は，ほとんど見られない．また『鍼経』からの引用とされる条文に，現行の『霊枢』に見えないものが少なくないことも特徴といえるかもしれない．